

CSRレポート 2019

セメダイン株式会社

本社、 〒141-8620
東京事業所 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー
☎ (03) 6421-7411

大阪事業所 〒542-0081
大阪府大阪市中央区南船場1-16-10 大阪岡本ビル
☎ (06) 4964-5330

名古屋事業所 〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄2-3-1 名古屋広小路ビルヂング
☎ (052) 218-5316

札幌営業所 ☎ (011) 271-4929

仙台営業所 ☎ (022) 287-3611

福岡営業所 ☎ (092) 432-7520

<https://www.cemedine.co.jp/>

商品に関するお問い合わせ先: 接着技術相談センター
☎ 0120-58-4929 (土曜日・休日を除く10:00~12:00、13:00~17:00)



Index

- イントロダクション …… 1
- トップメッセージ …… 2
- セメダイングループの概要 …… 3
- セメダインの事業 …… 5
- セメダイングループのCSR …… 7
- 特集 …… 9
- お客様を大切に …… 13
- 環境を大切に …… 15
- 人を大切に …… 24
- 社会から必要とされる企業であり続ける …… 27
- 企業価値の継続的向上に取り組む …… 31
- サイトレポート …… 35

本報告書の担当責任部署：
セメダイン株式会社経営企画部
連絡先：〒141-8620
東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー18階
TEL：03-6421-7375

報告の対象となる組織：本報告の対象組織は、茨城工場、三重工場、衣浦工場、開発センター、各事業所、営業所、セメダインケミカル株式会社 岡山工場となります。その他の事業所に関連する場合、注記することとしています。

報告対象期間：本報告書の記載内容は、特に注記のない限り、2018年4月から2019年3月までを報告対象期間としています。

※一部、対象期間以前の取り組みや、直近の活動報告を含みます。

編集の基本方針：環境省「環境報告ガイドライン」(2018年度版)を参考とし、ガイドライン項目に準拠して記載しています。

私たちセメダインは、 つける技術で 社会に貢献します。

当社の社名であるセメダインは、おかげさまで今日においても広く皆様に親しまれております。セメダイン (CEMEDINE) とは、接合材であるセメント (CEMENT) と力の単位を表すダイネ (DYNE) との造成語で、「強い接合・接着」という意味が込められています。これが一般的に言われている社名の由来ですが、実はこの他に、もう一つ意味があるとされています。

それは大正時代。当時、市場で隆盛をきわめていたのはイギリス製の「メンダイン」と呼ばれる接着剤でした。セメダインの創業者である今村善次郎は、「メンダイン」を市場から「攻め (セメ) 」出すという意味で、「攻め (セメ) 出せ、メンダイン」と、海外製品に打ち勝とうとの闘志を込めて、開発した製品に「セメダイン」という名前をつけました。

当時はまだ「接着剤」という言葉はありませんでした。家庭では「のり」、産業界では「接合材または、こう着材」というふうには呼ばれていました。実は、この「接着剤」という言葉も、今村善次郎が創った言葉なのです。

→ Top Message



接着剤を通じた「持続可能な社会の実現」への 貢献を目指します。

創業者 今村善次郎が掲げた社是を由来とする当社の企業理念『人を大切にし、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献する』は、すべてのステークホルダーを大切に、製品の改良や、新たな製品を生み出す研究開発力や製造力の重要性を踏まえ、マーケティング力や営業力の向上に努め、持続的に成長する企業としての社会的な責任と役割を果たしていくとの思いを表しています。

この企業理念を基本に、『川上から川下まで存在感のある接着のプロフェッショナルとしてグローバル社会にソリューションを提供する接着剤メーカーとなり、環境と人々の暮らしの未来を支える』を目指すべき企業像とし、より安全で環境に優しい接着剤の提供など、接着剤を通じた「持続可能な社会の実現」への貢献を目指し、コンプライアンスの遵守、安全・環境・品質の改善活動の推進、長期的視点に立った人材の育成など、引き続きステークホルダーの皆様へ信頼され、持続的に発展できるよう努めてまいります。

代表取締役社長

天知 秀介

セメダイングループの概要

→ 会社概要

会社名	セメダイン株式会社
本社所在地	〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
代表取締役社長	天知 秀介
設立	1948年4月22日(創業:1923年11月)
資本金	30億5,037万5千円
従業員数	335名
事業内容	接着剤・シーリング材・粘着剤・特殊塗料・コーティング剤およびその加工品の製造販売、接着および防水などに関する施工および請負



→ グローバルネットワーク

Japan

事業所 本社、東京事業所／大阪事業所 名古屋事業所／札幌営業所 仙台営業所／福岡営業所	開発拠点 開発センター
生産拠点 茨城工場／三重工場／衣浦工場	国内の主な関係会社 セメダイン販売株式会社 セメダイン化工株式会社 セメダインケミカル株式会社



America

アメリカ

CEMEDINE NORTH AMERICA LLC
2142 Western Avenue,
Cincinnati, OH 45214 USA

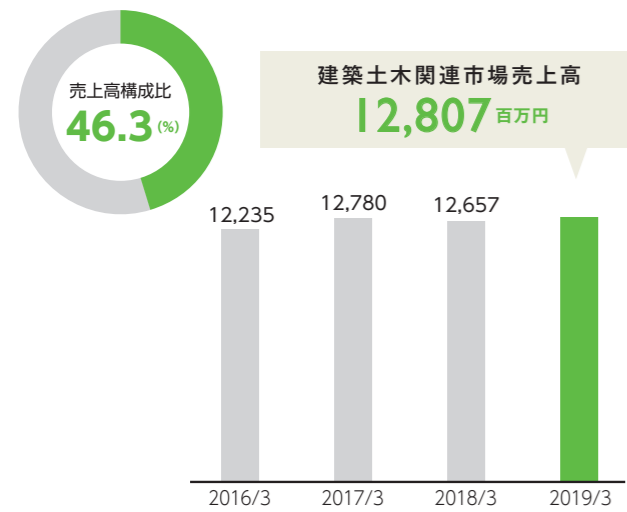
America ■

Asia

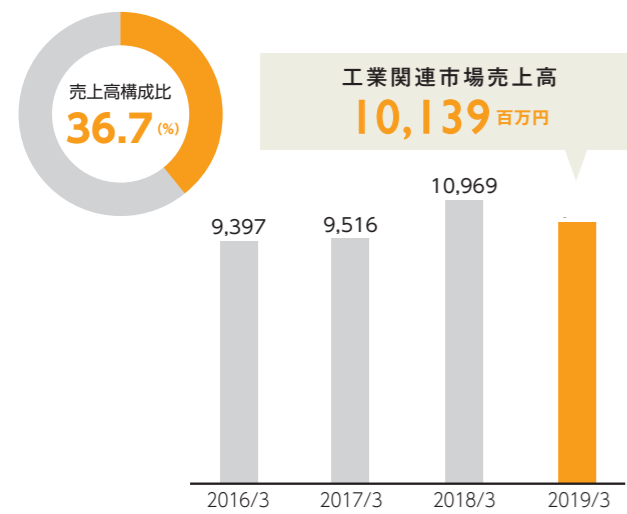
タイ	CEMEDINE (THAILAND) CO., LTD. 1717/1 Onnut Road, Suanluang, Bangkok 10250 Thailand	台湾	台湾施敏打硬股份有限公司 台湾新北市淡水區下圭柔山76-3號
中国	思美定(上海)貿易有限公司 / CEMEDINE SHANGHAI CO., LTD. 200120 中国上海市浦东新区陆家嘴环路1000号 恒生銀行大廈39樓	フィリピン	CEMEDINE PHILIPPINES CORP. Block2, Cavite Economic Zone II, General Trias,Cavite, Philippines 4107

China ■
Taiwan ■
Thailand ■
Philippines ■

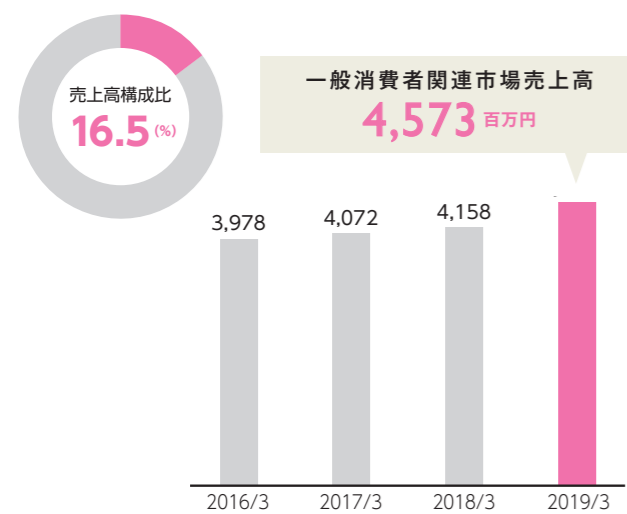
建築土木関連市場



工業関連市場



一般消費者関連市場



不動産賃貸収入0.5%を除外しています。

TOPIC

セメダインの コア技術 弾性接着剤

“強い接着” から
“はがれない接着” へ

弾性接着技術はセメダインが開発した
世界初の接着技術です。

弾性接着剤は、これまでの「剛」の物性を高める“硬くて強い接着剤”という考え方から180°転換し、硬化後にゴムのような柔らかさを持ち、“しなやかで剥がれにくい”「柔」の発想で高耐久性を実現しました。

高い耐久性に加え、広範な素材に対する良好な接着性、溶剤を含まず湿気をトリガーに固まる良好な作業性は、工業・建築の様々なモノづくりの現場で、欠かせない接着技術になっています。

建築土木関連市場

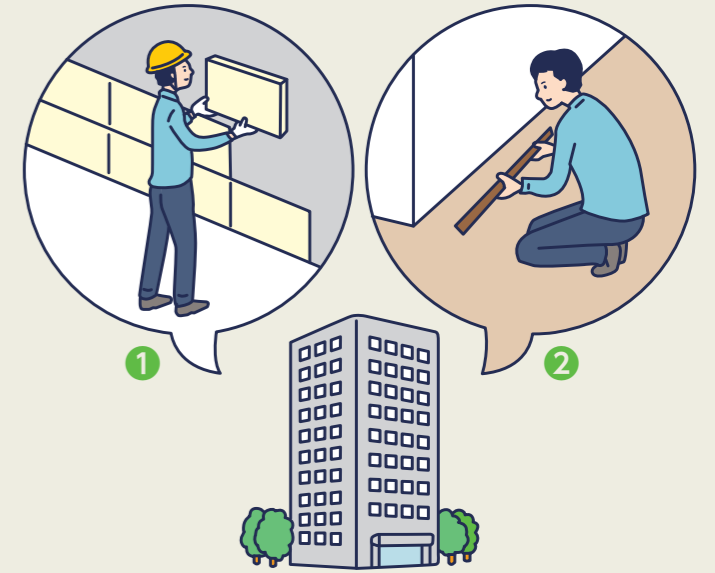
① タイルエースPro

高い実績と信頼性を誇る外壁タイル張り用の接着剤です。弾性接着技術によって、しなやかな物性が躯体やタイルの変形に追従。気温差や地震に強いタイル壁を実現します。



② SG-1・L

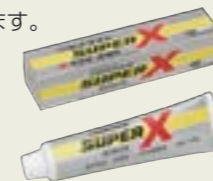
内装用の多用途接着剤です。近年素材の多様化がすすむ内装部材を素早く接着できます。溶剤を含まないため、屋内の現場で安心して作業ができます。



工業関連市場

① スーパーX No.8008

世界中のあらゆるモノづくりに欠かせない、セメダインを代表する接着剤です。非鉄金属とプラスチック、柔らかい材料と硬い材料の組み合わせなど、近年高まりを見せる異素材接合ニーズにもお応えします。



② SX720

スーパーXの、「広範な接着性能」「高耐久性」に「難燃性能」を付与した、電子部品用接着剤です。基板の電子部品固定などに使用されています。



一般消費者関連市場

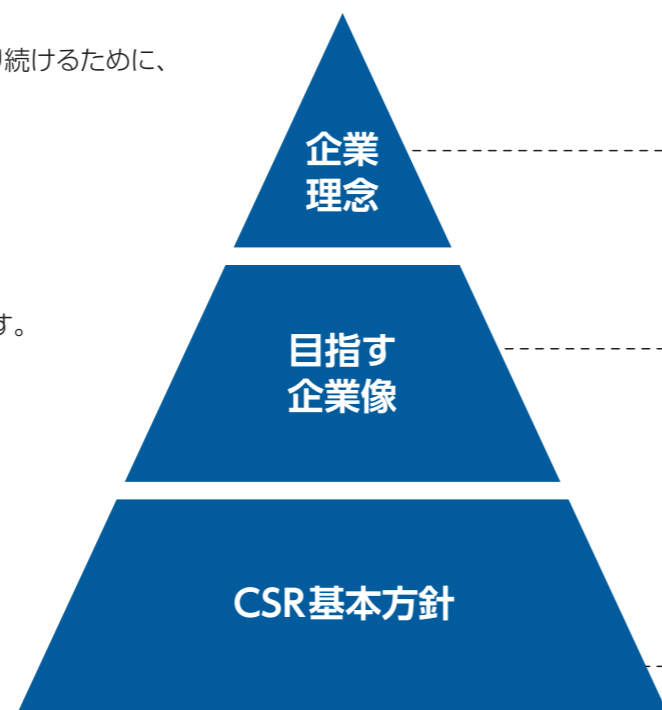
① スーパーX

産業の現場で高い信頼と実績を持つスーパーXですが、1997年からはホームセンターでも買えるようになりました。スーパーXを少量試したいエンジニアのほか、ハンドメイドやDIYなど様々な生活シーンで「モノづくりのパートナー」として広く活躍しています。



持続可能な社会の実現に向けて

セメディングroupは、信頼される企業であり続けるために、企業理念をグループ全員が共有しています。また、セメディングroupの社員として社会的責任を果たすCSR基本方針を「セメダインの5つの気持ち」として掲げ、持続的な社会づくりへの貢献を目指しています。



→ 主なステークホルダーとの関わり

私たちは、セメディングroupと関わる全ての人々を大切にす理念を掲げています。様々なステークホルダーに対して私たちが出来ること、そして取り組まなければならないこと（企業としての使命）を明確にし、最適な形でコミュニケーションを図りながら、ステークホルダーと良好な関係を構築してまいります。

	主な果たすべき責任	コミュニケーション方法
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ●品質マネジメント ●環境に配慮した商品開発 ●物流上での安全配慮 ●商品情報・サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様相談窓口(接着技術相談センター)の設置 ●営業担当・サービス担当によるお客様対応 ●WEBサイトによる情報発信 ●展示会の開催
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ●安定調達 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の業務を通じての対話 ●調達パートナーの訪問確認・フィードバック
社会	<ul style="list-style-type: none"> ●地域貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域イベントへの参加
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ●株主への利益還元 ●株主・投資家との対話を通じた企業価値の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●株主総会 ●ニュースリリース・公告などによる適時の情報開示 ●WEBサイトなどによる情報発信
社員	<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生 ●人材育成 ●雇用の多様性 ●ワークライフバランスへの配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ●労使協議会、または代表との協議 ●コンプライアンス・リスク管理委員会 ●社会環境報告書アンケート

→ 企業理念

人を大切にし、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献する

人とは、セメディングroupの全てのステークホルダー(お客様、取引先、社会、株主・投資家、社員)と捉え、事業推進に関わる全ての人々を大切にし、社会貢献を果たします。

→ 将来ビジョン

川上から川下まで存在感のある接着プロフェッショナルとしてグローバル社会にソリューションを提供する接着剤メーカーとなり、環境と人々の暮らしの未来を支える

産業や社会のあらゆるステージにおいて、接着分野の先進の知見と深い経験に基づく価値提供のできるメーカーとして、世の中に大きく貢献します。

→ セメダインの5つの気持ち

- お客様を大切にする**
- 1 安心・安全な商品の提供
 - 2 お客様ニーズへの対応
 - 3 付加価値のある製品の開発

- 環境を大切にする**
- 1 法律より厳しい環境基準の運用
 - 2 環境対応型製品の開発
 - 3 省エネルギー

- 人を大切にする**
- 1 グループ全体の人材育成
 - 2 ダイバーシティ化への対応
 - 3 制度、職場環境づくり

- 社会から必要とされる企業であり続ける**
- 1 地域社会への貢献
 - 2 適時適切な情報開示
 - 3 社会にソリューションを提供する接着剤メーカーになる

- 企業価値の継続的向上に取り組む**
- 1 コーポレート・ガバナンスの強化
 - 2 コンプライアンス、リスクマネジメント
 - 3 グループ全体の品質・安全への取り組み

お客様を大切にする

- 安心・安全な商品の提供
- お客様ニーズへの対応
- 付加価値のある製品の開発

P13

環境を大切にする

- 法律より厳しい環境基準の運用
- 環境への取り組み
- 事業活動と環境負荷
- 環境マネジメントの定量的評価
- エネルギー使用量・廃棄物の管理
- 環境会計

P15

人を大切にする

- グループ全体の人材育成
- ダイバーシティ化への対応
- 安全衛生

P24

社会から必要とされる企業であり続ける

- 地域社会への貢献
- 適時適切な情報開示

P27

企業価値の継続的向上に取り組む

- コーポレート・ガバナンスの強化
- コンプライアンス、リスクマネジメント
- グループ全体の品質・安全への取り組み

P31

世界をつなぐ、 セメダインの「付加価値」

セメダインらしい製品とサービスの開発を通じて 「付加価値」の向上を目指す

接着剤のパイオニアとして、

あらゆる産業に“つける”技術を提供しているセメダイングループは、

法令遵守を第一に掲げ、公正かつ健全な関係をお客様・取引先と築いてきました。

化学物質を取り扱う企業として、接着剤を利用するすべての人々の安全や健康だけではなく、

環境を守るために製品とサービスの「付加価値」を向上する様々な活動を展開しています。

そこで、各部を代表する社員が集まり、

セメダインが提供する「付加価値」に関わる座談会を開催しました。

お客様の「困った」を解決する

齋藤 私たちは、お客様の「困った」をいかに解決できるかという視点で製品開発を行っています。それは、良い製品を作るだけでなく、新たな使い方や性能を提案するために打ち合わせを重ね、お客様の課題にフィットした製品を開発して提供しています。

時田 私は、お客様に寄り添い、密にコミュニケーションを取りながら、研究開発を進めています。例えば、自動車業界では、クルマのボディーに使用される接着剤やシーリング材は設備（ディスペンサー）を用いて塗布されています。そのため、お客様の保有されているディスペンサーに適合した製品を設計するのも大きな付加価値につながります。

河野 世界的に人件費が上がっており、工場生産の自動化は至るところで話題になっています。特に海外では人件費が大幅に高騰しており、接着工程の自動化に対するお客様の要望が増えています。そこで、海外で比較的導入されやすい安価なディスペンサーに対応した製品開発を進めています。

吉川 私が担当している車載分野では、海外生産のため、現地調達の希望があります。当社製品の生産拠点を海外へ移転し、当社の海外拠点であるタイなどからタイムリーに海外のお客様へ輸送することが増えてきました。

浦部 お客様が使用される環境を考えることも大切です。接着性能だけを重視すると、作業性が悪くなってしまうこともあります。床材の接着剤などは、「剥がしやすい」という性能も必要であり、常にバランスに配慮しています。

紺野 私が担当している建築現場では、実際に接着剤を使用する職人への健康被害や、周囲への環境汚染にも配慮した製品開発はもちろん、ゴミを出さない容器や副資材の開発も重要なテーマです。マイクロプラスチックや海洋汚染などの社会問題が顕在化する中で、副資材やゴミを最小限にとどめるために、容器や副資材とセットで接着剤の開発を進めています。

高森 コンシューマー市場では、当社製品は、問屋や代理店を経て販売店やインターネットの店頭並び、そこから消費者の手に渡ることになるのですが、消費者と販売店の方々が感じるメリットは違います。よって、当社製品に関わる代理店・販売店・消費者それぞれが「WIN-WIN」の関係となるよう、それぞれに付加価値を追求しなくてはなりません。危険物に分類されるエアゾール関係の製品は、消防法により店頭並びべられる本数が決まっていますが、溶剤の種類を変更したことで、これまで以上の本数を店頭並び保管できるようになり、販売店側の販売機会損失を避けることができました。これは代理店や販売店にとっての付加価値につながった例だと思えます。

周辺の機能やサービスも含めた 「いいね」が大切

河野 ゴミの削減は、お客様の工場内でも重要なテーマです。両面テープを使用する場合、大きなシートに型を入れて切り抜くので、場合によっては8割ものテープがゴミになることもあります。それに両面テープは離型紙のゴミが必ず発生します。こうしたゴミを削減するために、接着剤に変更する提案を進めています。

紺野 それはいいですね。建築現場では、鉄同士の接着を検討しているのですが、建築現場の鉄筋やH鋼はほとんど錆びており、錆を落とすために表面を削る必要がありますが、鉄の表面を削る際に発生する火花は火災の原因ともなるため、化学的な処理で錆を溶かす方法を検討しています。接着剤の開発とともに、そうした表面処理技術も提案することで、お客様から評価をいただいています。

吉川 私は、高温のエンジンオイルの中に常に浸かっている部品を接着するテーマがありました。耐熱性を改善し、硬化性に関しても改良を行いました。加えて、安定性の向上と、速硬化性の発現といった、相反する性能の付与を、配合により実施しました。さらに、接着だけではなくコーティングして保

護するプラスワンの機能も追加しました。これらの改良によって生産ラインのスピードアップの向上、生産性の向上が実現し、お客様から大変喜んでいただきました。

齋藤 たしかに、ある業界ではスタンダードグレードだった海外の接着剤も、樹脂製品の特性から高温になると段々柔らかくなり、変形してしまう問題を抱えていました。そこで、私たちは高温でも変形しない製品を開発し、すぐにお客様から採用いただいたことがありました。先輩方が長年蓄積してきた知見に新しい技術を組み込んだことで、他社製品よりも遥かに上のレベルで、耐久性を発現させることができました。その後も、そのお客様はその製品で使用される全ての接着剤を当社製品へ変更して下さいました。当社グループが培ってきた、接着剤を開発する技術力を、高く評価していただけたのです。

時田 温度変化は、接着する素材にも様々な影響を与えます。自動車業界では最近、金属と樹脂を接着するニーズが高まってきています。その背景にあるのはクルマの金属の一部を樹脂に置き換えることによる軽量化です。しかし、金属と樹脂では、温度によって変形する度合いが違います。接着した後は、接着剤が変形を吸収し、且つ構造体としての剛性も保たなくてはなりません。これらを両立できるように開発を進めています。

高森 どの業界でも同じですが、今後競争を勝ち抜くためには客単価を上げることが販売店共通の課題です。そこで、富



裕層やイノベーターをターゲットとして高付加価値製品を高い価格で販売する「スキミング・プライシング」という戦略が注目されています。ハイエンドユーザーに高い評価をしていただくことで、製品のコモディティ化や価格低下を防ぐという戦略でありメーカー、販売店、消費者のメリットになるものです。接着剤自体の付加価値を最大限に高めるだけでなく、使い方の具体的な提案を含め、その製品がどのような世界を生み出すのかというストーリーを、具体的に示していかなくてはなりません。

浦部 量産日程が決まっている自動車向けのプロジェクトでは、限られた期間でユーザーの求める性能を満たす提案が必要です。競合他社がいる中、いかにお客様のニーズを正確に汲み取って開発し、出来るだけ早く良いものを提案できるか。このようなスピード感も、お客様から評価されるポイントです。もちろん、いきなり100%の性能を満たした提案は難しいため、80%でも改良サンプルを繰り返し提案していくことが、お客様側が検討、評価しやすい環境につながっていくと思います。

紺野 建築市場では、鉄やコンクリートよりもはるかに耐久性の高い素材として、法隆寺の時代から使われてきた「木」を構造物とした建築物のプロジェクトが進んでいます。当社も、「震度7」レベルに耐えられる接着剤の開発を目指してプロジェクトに参加しています。

時田 製品開発には、開発した製品の付加価値を測る試験や評価も不可欠です。そこで、自分自身で装置やソフトウェアなどを組み合わせ、測定するためのルーチンを構築し運用した経験があります。そうしたことで、新たな素材や機能を発見し、お客様への提案に繋がることも多かったです。

吉川 環境規制は、化学品を取り扱う企業として、どんな小さな情報でも看過することはできません。変成シリコン製品で使用されているスズ触媒が、食品や手の触れる分野では、規制がされており、当社は、代表的工業用製品の「スーパーX」の脱スズ化が進んでおり、その他の製品にも、先行する技術と知見を融合させることで、スズ触媒を用いることなく同様の性能を発揮する接着剤の開発を進めています。まだまだ課題はあるのですが、お客様、取引先との報告・連絡・相談

を重ねていくことで、一つひとつ解決していきます。

齋藤 環境負荷軽減とともに、重要な課題である安全性をもっと高めることができないかと考えていたところ、糊に近いような水系の接着剤の構想に辿り着きました。やがて、「スーパーX」と同等の接着性や耐久性を持った試作品が完成し、コンシューマー担当の事業部の方々に見

せたところ、「これはすごい!!」というお声をいただき、製品化することになりました。お年寄りから子供まで、誰でも安全に、簡単に使える接着剤という、新たなコンセプトを体現した製品となりました。

高森 私は入社当時に、その水性タイプの製品を見て感動しました。手に付着しても擦れば取れるし、はみ出しても簡単に拭き取れて、速硬化性で衝撃にも強い。接着剤の概念を壊した画期的な製品だと思いました。毎回展示会で、模型作りで接着剤が使われるユーザーの方から「これ良いよね」と言われます。こうした多面的なメリットがあることも付加価値であると実感しました。

すばやい情報共有で 一体化した製品開発を実現

浦部 スピード感のある開発を実現するためには、お客様の課題を的確に社内や取引先と共有することが重要です。これが遅れてしまうと、他の案件も積み重なり、結果としてすべてに遅れが出てしまう。そして、接着剤だけで解決するのが難しい課題があれば、早期にお客様に報告・相談し、設計変更なども検討いただく。そのような良きパートナーになることも、付加価値を生み出すためには大切なことですね。

接着剤のプロとして 「付加価値」を追求する

河野 セメダイングループの社員はやはり、接着剤のことを日頃から考えていなくてはならないと思います。接着剤の弱点や改良すべきポイント、付加すべき機能など、お客様から指摘を受ける前に色々と種を蒔いて、手元にアイデアを持っていないと不行き届き。そして、お客様から要望があった時には、すぐに提案できるようなスピード感を持ちたい。そのためには日頃からちゃんと、製品開発の芽を育てていかないといけないですね。

時田 自動車業界では今後、電気自動車など新たなコンセプトのクルマが増えていきます。そこでキーとなるのが車体の軽量化です。車体の樹脂化、異種材の接着などのニーズはここ数年広がっていくと思います。そうした要望をあらかじめお客様から拾い上げて開発をスタートする、お客様の「困った」を先読みする活動や、お客様とともに作り上げていくような製品開発を引き続き行っていきます。

高森 除菌と消臭の機能をプラスした防水スプレーを企画開発しました。防水スプレーは、何か新しい付加価値がなければどんどん価格が下がる商材です。そこで、防水スプレーを使う理由や場面をあらためて考えてみると、濡れるものは臭くなりやすいということに気がつきました。釣り用にも売れるように開発し、魚のニオイの消臭率についてカタログにいれ



てPRすることで、釣り用にも拡販できました。

齋藤 セメダイングループの接着剤を購入いただいたお客様、接着剤を納入している販売店様など、全ての人が笑顔になれる製品開発をもっとやっていきましょう。それが接着剤の「プロ」ということにつながると思います。

紺野 接着剤は、モノ同士を「つける」という機能から、構造物や建築物の一部を構成する素材や材料へと、活躍する場が広がっています。そうした新たな付加価値の創造にも取り組んでいきます。

吉川 セメダイングループのさらなる成長のためには、日本だけでなく海外の生産拠点を開拓することが必要です。そのためにも、開発部だけで製品設計をするのではなく、部署を横断した緊密な連携が必要です。そうした社内のコミュニケーションを図ることで、「かゆいところに手が届く」といった、

お客様から高く評価される高付加価値製品を作り出していきたいです。

浦部 セメダインは、接着剤の総合メーカーとしてまもなく100周年を迎えます。当社は、「人を大切にし、より良い製品をより多くの人々に提供することにより、社会に貢献する」を企業理念とし、「環境と人々の暮らしの未来を支える」を将来ビジョンとして掲げています。川上から川下まで存在感のある接着プロフェッショナルとして、グローバル社会にソリューションを提供する接着剤メーカーとなり、100周年の際には、社員全員が誇れる企業グループとして成長できるように頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。



お客様を大切にする

法令遵守を第一に掲げ、お客様・取引先との関係を、公正かつ健全なものとしていきます。

そして、品質に優れ、安心・安全で環境に優しく、社会に有益な製品とサービスを提供することで、社会に貢献し、企業価値を高めていきます。

安心・安全な商品の提供

安定調達の推進

当社では、調達品の適切な品質の確保や継続的な取引先として与信状況の把握、そして安全調達を推進するため、取引基本契約の締結、材料の仕様書取り交わし、公平・公正な購買取引を通じて、取引先との協力と信頼関係の構築に努めています。

調達基本方針

- 1 取引先と相互の企業価値の向上を目指した調達活動を推進します。
- 2 地球環境への負荷低減を目指し、グリーン調達に取り組みます。
- 3 公平かつ公正な取引機会を提供し、品質、価格、供給安定性、技術開発力、環境保全、安全確保への取り組み等を総合的に考慮した合理性のある取引を行います。
- 4 国内外の関連法規制を遵守した取引を行います。

遵法・購買倫理

- 国内外の法令、ルールを遵守し、「セメダイングループ行動規範」や、社内諸基準に則り良識ある行動に努めます。
- 取引先との契約を誠実に履行します。
- 取引先とのコミュニケーションに配慮して、知り得た情報はその重要性をよく理解し、秘密保持に努めます。
- 取引先とは、公正・公平・透明・合理的な業務手順を念頭におきながら共存共栄を目指す関係を築いていきます。

購買取引の原則

- 経済的な合理性に基づき、適正価格での取引を行います。
- 取引先選定にあたっては、品質・価格・供給安定性・技術開発力・環境保全・安全確保・納期等から合理性のある選択を行います。不採用の場合、要望によりその理由を説明します。
- 購買取引は原則として複数見積比較に拠り行います。
- 取引先と行うコストダウンの取り組みでは、ルールを定めて積極的に推進します。

購買取引に於けるCSRの実践

- 原材料等の購買取引は、購入品の品質・安全性確保のため、法令、セメダイングリーン調達ガイドライン及び諸基準を適用します。
- 購入品が、その生産・流通に於いて、地球環境の保全に配慮されており、人権侵害に関わるものでないことを確認します。

取引先への要請

- 「調達基本方針」の趣旨を理解し、相互の企業価値の向上を目指して、サプライチェーンを構成するビジネスパートナーとしての協力を要請します。
- 経済合理性に裏付けられた合理化等の各種提案の促進を要請します。
- 取引先に対し、コンプライアンス・人権・労働安全・環境・品質・安全等への取り組み状況の明示を求め、協働してCSRを実践していくことを要請します。

サプライチェーンマネジメントの構築

社会的背景

企業活動のグローバル化が急速に進む中、途上国を中心としたサプライヤーにおける人権侵害、労働問題、環境破壊などが顕在化するようになり、企業は、自社のみならず、サプライチェーン全体でCSRの取り組みを行うことが必要であることをセメダイングループは認識しています。

セメダイングループにおけるリスクと機会

人権侵害、労働問題、環境破壊などがサプライチェーンによって引き起こされた場合、取引停止やブランドイメージの低下、労働ストライキや訴訟への発展などのリスクにさらされる可能性があります。そのような中、セメダイングループとしては、人権・労働、環境保全などの社会的責任をサプライチェーンを通じて遂行するために「調達基本方針」に基づ

き、サプライチェーン全体でCSR活動強化、適正な取引のための取り組みの充実を図っています。

方針

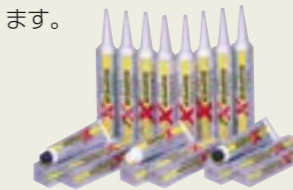
セメダイングループは、公正で公平な取引のもと、法令・社会規範の遵守、人権・労働・安全・健康への配慮、生物多様性の保全や化学物質のリスク管理などによる環境保全への配慮等の社会的責任をサプライチェーンを通じて遂行する為に、「調達基本方針」を制定しています。また、当社は2005年度に環境関連物質に関する「グリーン調達ガイドライン」を制定しており、4回の改訂を重ね、2018年7月に第5版として発行・運用しております。お取引先のご理解・ご賛同によるパートナーシップ体制の構築によりCSR調達水準のさらなる向上に取り組んでいます。

お客様ニーズへの対応

VOICE：拡大し続けるスーパーXシリーズ

1992年に発売された工業用スーパーXは、その優れた耐久性が評価され、国内のみならず海外のメーカーにも採用され、急速に拡大していきました。当初は白色のみのスタートでしたが、黒色品、低粘度品、クリア品、難燃規格合格品、粘着タイプ品など次々に追加され、スーパーXシリーズの充実が図られました。その後、硬化速度を速める要望が多くなり、速硬化タイプのスーパーX2、スーパーXGがラインアップされたほか、20ml規格の要求に応えた家庭用スーパーXが1997年に発売されました。

現在は、時代の要望に応え、スーパーXに様々な機能を付与した「機能性スーパーX」の開発と市場開拓に重点が置かれています。放熱性や導電性、難接着素材[PP(ポリプロピレン)]対応品、オンデマンド接着ニーズに応えるUV硬化形など続々と機能が付与された新製品が上市されています。



営業管理部
販売促進課
木村修司



付加価値のある製品の開発

VOICE：作業者に優しい接着剤を

接着剤を使う現場は工場のラインや建築現場等様々なシチュエーションがありますが、例えば環境への影響を配慮した「CCS製品」や容器を工夫して廃棄物を削減すること、求められる接着性能を満足しつつ従来製品より剥がしやすくすることで剥がす際の騒音や粉じんを抑えることができる製品等「くっつけばいい」だけでなく、そこで働く作

業者にとって「優しい接着剤」を提供できることが接着剤メーカーの大きな使命と考えています。



“はがしやすい”
ビニル床タイル用接着剤
フロアロック210

営業管理部
販売促進課
平井輝雄



環境を大切に

化学物質を取り扱う企業として、化学物質に対する認識を深め、適切な管理を行うとともに、製品を提供する企業責任として、製品の性状、安全性、取り扱い方法を明確にし、それらを利用するすべての人たちの安全と健康、および環境を守るために、様々な活動を展開しています。

法律より厳しい環境基準の運用

環境管理体制

お客様に、安心して当社製品を使用していただくための品質保証体制として、品質保証本部の下に、品質保証を担う品質保証部、工場で生産される製品の品質を管理する品質管理部があります。

これに加え、2015年の4月から環境管理体制の強化の目的で、新たな品質部門として「環境安全衛生部」が設立されました。

環境安全衛生部は、製品の表示などに関する化学物質の法規制管理やグリーン調達、作業現場での化学物質リスクアセスメントなど、接着剤に使用される化学物質に関する管理と、当社グループに勤務する社員の労働安全衛生やリスク管理、5Sなどを担当する安全衛生管理という、大きく分けて二つの業務を担っております。

基本的な考え方

近年、世界的に化学物質に対する法規制がますます厳格化されてきております。その中でセメダインは、接着剤の総合メーカーとして、法令遵守をリスク管理における生命線と位置づけ化学物質管理に取り組んでいます。世界各国の法規制とその動向を把握し、各国の化学物質の規制に適合した製品の設計を継続するとともに、化学物質製品情報の開示要求に速やかに対応し、化学品・製品安全の推進に努めています。2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD [ヨハネスブルグサミット])」においては、化学物質の管理に関する「2020年目標」が提唱されています。この目標達成に向け、セメダインはモントリオール議定書、ストックホルム条約、ロッテルダム条約などにおける国際懸念物質の廃絶と、新たに追加が予定されている規制物質を含有する製品の代替などの取り組みを推進し、また化学物質管理に関する情報提供を積極的に行うことで、社会全体のリスク低減に向けた貢献を続けています。さらには、化学品管理分野におけるエキスパートとして、工業会活動などを通じて、化学品の安全・規制に関する課題の検討と対策に積極的に関わっています。

海外の製品リスク管理・規制への対応

環境に関わるリスクは多岐にわたり、法規制は世界各国において年々強化されています。

このような状況を踏まえ、当社では、環境安全衛生部が中心となって、新しい環境法規制に関する情報収集やリスクなどの分析を行い、法令遵守を徹底しています。具体的には、様々なセミナー、工業会、コンサルタントなどを通じて、海外の化学物質に関する最新情報を収集し、法規制の改正などに速やかに対応する体制を整えています。

近年、欧州における化学物質規制REACH[※]の制定をはじめ、中国・韓国・台湾などで、化学物質のリスク管理強化を目的とする法規制化が進み、東南アジア諸国でも、GHS[※]が導入されるなど、各国でSDS[※]などの整備が進められています。

製品を輸出する際は必ず、米国・韓国・中国・台湾・フィリピンなど、各国の既存化学物質リストへの収載有無の確認を徹底するとともに、製品設計する上でも、確認精査するよう取り組んでいます。

既存化学物質リストへ収載されていない物質を各国へ輸出する際には、法的手続きを実施している他、海外で製造もしくは輸入している製品中の化学物質について、対象国での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録を進めています。

※REACH
The Regulation for Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals :
欧州連合における化学物質の登録・評価・認可及び制限に関する規則。

※GHS
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals :
化学品の分類および表示に関する世界調和システム。

※SDS
Safety Data Sheet :
化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類のこと。旧称:製品安全データシート (MSDS) が2012年3月制定のJIS Z 7253により安全データシート (SDS) に名称変更された。

海外法規制に対して

2020年までにSAICM[※]を達成させることが国際的な目標となっており、それに向けて世界各国 (中国、韓国、台湾、タイ、米国、トルコなど) で化学品に関する新たな法規制が制定・改正されています。特に、欧州のREACHに端を発するすべての既存の化学物質を対象とした登録義務化が、韓国、台湾でも導入されようとしています。

セメダインはこのような各国の法規制に対応し、各部署や海外関係会社と連携し、現地にて法規制最新動向情報の収集を行い、より正確で確実な法令対応を取る体制を整備しています。2018年度は、2019年から運用が本格化される韓国の化評法[※]での登録、台湾のTCSCA[※]での登録、米国のTSCA[※]でのインベントリーリセット対応、およびREACHの対応に注力しています。

※SAICM
Strategic Approach to International Chemicals Management :
2002年の国連環境計画管理理事会において決議された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ。

※化評法
韓国における化学物質の登録および評価などに関する法律。

※TCSCA
Toxic Chemical Substance Control Act :
台湾の行政院環境保護署が所管する毒性化学物質管理法。

※TSCA
Toxic Substance Control Act :
米国で製造/輸入される化学品 (物質) を対象に環境保護庁 (EPA) が定めている有害物質規制法。

輸出化学品への対応

欧州 (REACHへの対応)

2007年6月のREACH施行にともない、既存化学物質、新規化学物質の区別なく、年間1t以上欧州域内で製造・輸入する化学品は一部例外を除き、安全性試験などのデータをつけて登録することが義務づけられています。欧州における製品の製造・輸入に支障が生じないように登録が必要な物質の有無を定期的に確認しています。

製品の化学物質管理への対応

各種法定対応

2018年度の取り組み (国内)

2018年度は、主に毒物及び劇物指定法令の一部改正について適切に対応しました。法令に指定された物質を含有する製品につきましては、SDSの交付、GHSラベル表示の変更などを実施しました。

2019年度には国連GHS文書改訂6版に基づきJIS Z 7252、JIS Z 7253の改正が予定されており、情報を入手するとともに社内でも情報周知に努めました。

米国

米国の新規化学物質の届出制度は、環境保護庁 (EPA) 所管の「有害物質規制法 (TSCA)」および関連する連邦規則により定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を米国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

韓国

韓国の新規化学物質の届出制度は、環境部所管の「化学物質登録及び評価などに関する法律 (化評法)」および雇用労働部所管の「産業安全保健法」に定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を韓国へ輸出する場合には「化評法」に基づき法的手続きを実施しています。

中国

中国の新規化学物質の届出制度は、国家環境保護局の「新規化学物質環境管理弁法」に定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を中国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

台湾

台湾へ製品を輸出する場合には、「毒性化学物質管理法 (TCSCA)」および「危険物及有害物通識規則」に従って対応しています。台湾では2014年に新規化学物質の登録制度が導入されました。セメダインではこの新規化学物質登録制度に基づき法的手続きを実施しています。

紛争鉱物への対応について

コンゴ民主共和国とその周辺諸国で採掘される鉱物 (tantalum、tungsten、錫、金) の一部が、人権侵害や環境破壊などを引き起こす武装勢力の資金源となっているとの懸念から、2010年、米国にて金融規制改革法 (ドッド・フランク法) が制定され、米国上場企業に対し、それら鉱物の使用状況に関する報告義務が課されました。当社では、紛争鉱物対応に真摯に取り組む、顧客への情報開示を行うことが、グローバル企業として社会的責任を果たすことであると考えています。

各種法定対応

2018年度の取り組み (海外)

2018年度は引き続き、世界的な化学物質に関する法改正に対応できるよう、様々なルートを通じて情報を入手し、仕組みの改善に取り組みました。

2018年度に期限を迎えるTSCAのインベントリーリセットの対応、中国の危険化学品における法規制の動向、さらにベトナムにおける化学品管理の法令改正、その他フィリピン、韓国、台湾などのアジア諸外国における新規化学物質の登

録について対応を行いました。

REACHについては、2018年5月の登録猶予期限を迎え、輸出物質を登録推進する他、ECHA（欧州化学品庁）や加盟国による物質評価への対応、高懸念物質や認可・制限物質などの情報収集などを継続的に行っています。

化学物質の情報管理の強化に向けた活動

化学物質の管理について

セメダインおよびグループ各関係会社は、製品の開発から廃棄までのすべての過程において、環境関連物質による環境への負荷を低減するために、製品および製造時に使用する化学物質の管理を実施しています。

1. 使用物質の把握・管理

製品により、下記の基準に基づき、使用物質の禁止、管理を進めています。

- 法規制
 - ↳ 化審法、労働安全衛生法、食品衛生法、PRTR法、RoHS指令、REACH等
- 用途
 - ↳ お客様の要求（お客様の化学物質管理規程等）
 - ↳ 当社の化学物質管理方針

2. 開発における原材料の選定

製品の開発に当たり、上記の基準を踏まえ、不純物を含め、原材料の選定を行っています。

3. 購入原材料の管理

原材料に起因する、意図しない化学物質の混入を防ぐため、「セメダイングリーン調達ガイドライン」を制定し、以下の要領で管理しています。

- 原材料メーカーに対する、環境関連物質の管理を含む環境管理システムの構築の依頼
- 購入する原材料のSDSによる情報収集および、1項の基準により制限を受ける物質の分析データおよび、「化学物質含有情報シート」の要求
- 不適合発生時の是正処置要求および効果の確認

4. 製造における異物混入、不純物管理

- 製品の化学物質管理の要求レベルが製造現場で把握できる体制の確立
- 管理レベルの異なる製品の設備的分離又は、異物混入防止対策の徹底
- 異物、不純物混入防止作業の徹底とその教育の実施

化学物質管理の教育

化学物質を適切に管理するために、化学物質を取り扱うすべての社員に対して、化学物質の有害性/危険性、適切な取り扱い方法ならびに化学品規制などの教育を行っています。また、管理部門を対象とした、国内外の化学品規制コンプライアンス教育を定期的実施しています。

5. RoHS10物質の検査

カドミウム、六価クロム、水銀、PBB、PBDE、DIBPについては、既に全廃し、規制値を超える可能性は有りません。鉛、BBP、DBP、DEHP、についても用途および使用場所を限定・管理しています。これらを含む原材料を使用する製品もありますが、設備的分離又は、混入防止対策の徹底により、規制値を超えることなく管理しています。その上で、以下のように検査の頻度を定めています。

- 非鉛、非DEHP専用ライン製造製品は、定められた頻度で分析を行い、安定した生産状態であることを確認する
 - DEHP、BBP、DBP使用ラインでは、改正RoHS指令*規制対象用途に使われる製品は生産しない
 - 鉛化合物使用ライン製造製品は、すべての該当製品を分析、検査する
- 他の化学物質については、分析技術が未確立などの問題がありますが、当社に原材料を供給していただいている原材料メーカーと綿密な連携のもと、お客様のご要求にお応えできる管理状況になっております。

*RoHS指令
欧州連合(EU)による、電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についての指令。

6. SDSおよび製品ラベルのGHS対応

セメダイングループでは、世界各国で導入されているGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

GHSは、(1) 化学品を危険有害性に応じて分類し、(2) 製品の包装容器にラベルで表示し、(3) SDSに内容を記載し提供することを世界的に統一する仕組みです。

国内では労働安全衛生法で対象物質含有製品のラベルとSDSについてGHS化が義務づけられており、セメダインでは対象物質を含有するすべての製品について危険有害性を分類し、ラベル表示の対応を完了しました。SDSについては、すべての国内製品についてGHS化を完了しました。海外向けについてもEU、韓国、台湾、中国などGHSの法制化がなされた国への対応を完了しています。

7. 含有化学物質情報の入手と提供

7-1. グリーン調達ガイドラインの実施

セメダインでは、環境に配慮した安心できる製品を提供するため、「グリーン調達ガイドライン」を定め、製品の環境負荷物質管理や、原材料・包装材料の取引先の品質・環境管理の調査を行っています。具体的には、SDSや、chemSHERPA-CI/AI*、環境管理に対する調査表の提出を求めています。さらには、製品を開発する際の重要配慮事項として、化学物質に関する国内外の法規制を調査し、RoHS指令や高懸念物質(SVHC)をはじめとする、使用禁止化学物質が含有していないことを確認しています。ま

た、新製品のみならず、既存製品におきましても、随時、見直しを進めています。

7-2. chemSHERPA-CI/AIの作成

製品含有化学物質情報の伝達に関して、chemSHERPA-CI/AIのデータ作成支援ツールによる運用に積極的に取り組んでいます。

* chemSHERPA-CI/AI
新情報伝達スキーム
製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。

環境への取り組み

環境方針の制定

2003年に、全社の環境活動の基本となる環境方針を制定しています。

基本方針

セメダイン株式会社は、全社員が環境の重要性と資源の有限性を認識し、その保全・保護・改善に不断の努力を行うとともに、環境を視野に入れた企業発展を目指し、社会的責務と事業活動を両立した環境保全企業を指向する。

行動指針

セメダイン株式会社は、「接着剤・シーリング材ならびにこれらの関連製品の開発・生産・販売」の事業活動において、その活動を地球環境の保護に調和させ、かつ持続的発展の可能な環境保全型企業実現のため、全社員が遵守すべき指針を以下に示す。

- 1 製品の開発から廃棄に至るすべての事業活動において、環境・安全・健康への影響に配慮することを経営の重点課題とし、全社挙げてこれに取り組む。
- 2 環境保護に対する社内体制の整備、環境負荷低減目標の設定、環境保護活動の推進に積極的に取り組むとともに、これらの活動を通じて環境へのさらなる意識向上を図る。
- 3 製品の全サイクルを通じ、環境保護のための省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物削減などの環境負荷低減に積極的に取り組み、その継続的改善に努める。
- 4 国・地方自治体・業界などが定める環境関連規制をよく理解するとともに、必要に応じて自主基準を設定し、これらの規制・基準を遵守する。
- 5 製品の輸出や海外での事業活動に際しては、現地の環境保護・法令等に配慮し、必要な対策の実施に努める。

環境マネジメントシステムの構築

2000年9月に三重工場、2002年3月に茨城工場において、日本化学キューエイより環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、活動してきました。

製造部門は、当社の中でも特に環境負荷の大きい部門ですが、両工場が歩調を合わせて、ISO14001のシステムに基づき、PDCAサイクルを回して継続的改善に取り組んでいます。また、2018年9月には、衣浦工場を認証登録範囲に加え、環境負荷軽減への取り組みを強化しています。

ISO14001 定期維持審査と内部環境監査

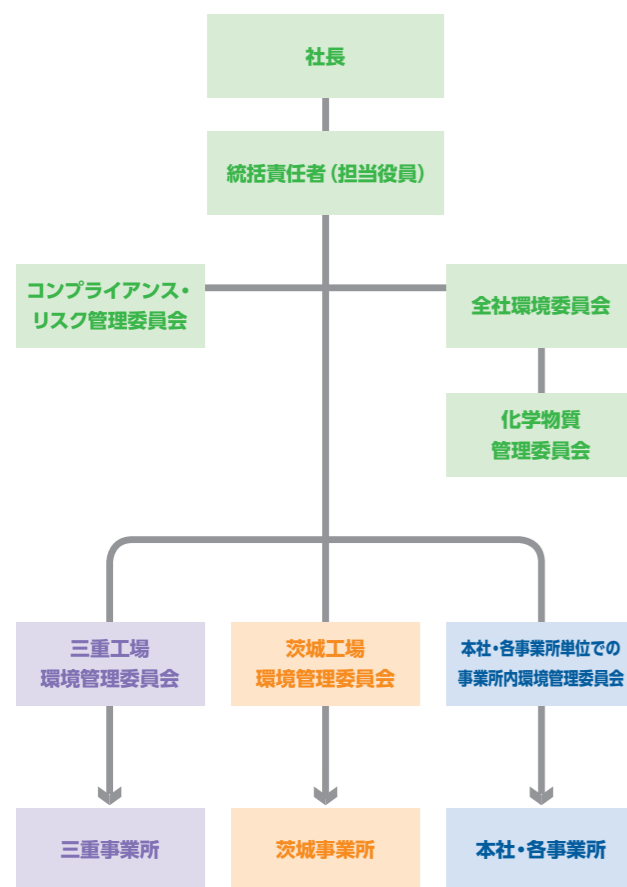
環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得している茨城工場、三重工場、衣浦工場では、外部審査機関（日本化学キューエイおよびDQSInc.）の定期維持審査を受けて、システムの定着・運用を確認しています。

また、環境マニュアルで規定され登録承認された内部環境監査員により、全部署の内部環境監査を実施しています。

指摘や改善推奨事項が示された場合には、迅速に是正しています。内部および外部で発見された指摘事項に対する改善を繰り返すことにより、継続的な改善向上を図っています。



推進体制の強化



環境マネジメントプログラムの策定

各事業所の環境管理活動の指針となる全社環境マネジメントプログラムを策定し、各事業所の活動の基準としています。

全社環境マネジメントプログラム

1	資源・エネルギーの使用量把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> 電力・重油の使用量を削減する。
2	廃棄物排出量の把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物を削減する。
3	環境保全 <ul style="list-style-type: none"> 大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)排出量を削減する。 環境法令を遵守する。 建物・設備の導入・更新時に環境に配慮する。 グリーン購入を推進する。
4	化学物質使用量の把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> 有害化学物質の使用量を削減する。 使用する化学物質の環境影響評価を行う。 包装材料使用量を把握する。
5	環境配慮製品の開発 <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮製品の開発、販売を推進する。
6	環境情報の公開と外部コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 環境活動内容を公開する。 企業活動を通じて地域・社会へ貢献する。

事業活動と環境負荷

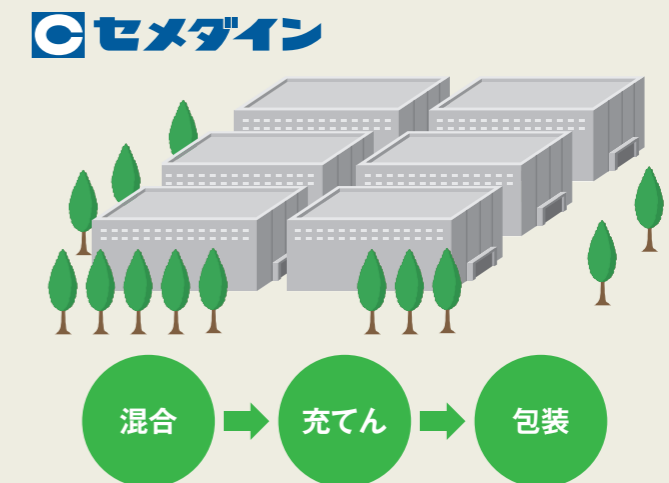
INPUT

原材料

ゴム類	304t	有機薬品類	3,987t	電力	5,945千kwh
樹脂類	10,558t	無機材料	15,058t	燃料	1,072kl
油脂・溶剤類	2,045t	その他	528t	水	90,339m ³

工場

対象：茨城工場・三重工場・衣浦工場・セメダインケミカル株式会社 岡山工場
 CO₂排出量：電力燃料使用量より算出した数値。
 VOC排出量：日本接着剤工業会の重点削減物質使用量に一定の係数を掛けた値。[n-ヘキサン、シクロヘキサン、トルエン、キシレン、メタノール、酢酸エチル、アセトン、メチルエチルケトン、ゴム揮発油]



OUTPUT

製品	31,781t	CO ₂	5,729t
廃棄物	1,290t	VOC (揮発性有機化合物)	12.4t

環境マネジメントの定量的評価

○: 改善
 △: 改善されているが不充分
 ×: 改善できず
 -: 評価なし

全社環境マネジメントプログラムの結果

	2016	2017	2018	目標	実績	自己評価
CO ₂ 排出量 (t)	5,495	5,832	5,773	-	エネルギー起源のCO ₂ 排出量は84t (1.5%) 増加しました。温対法により行政に報告するCO ₂ 排出量は59t (1.0%) の減少となりました。尚、省エネ法によるエネルギー使用量の行政への報告値は、前年度の2,594KLから2,629KL (原油換算値) に増加しました。	△
電力使用量 (千kwh)	5,481	5,651	6,530	工場部門:生産量原単位比で1%削減 事務所部門:1%削減	衣浦工場が集計範囲に加わったことにより総使用量が増加しました。工場部門の生産量あたりの原単位も前年度から4.6%の増加、事務所部門でも5.5%の増加となり、目標を達成することが出来ませんでした。	×
A重油購入量 (kl)	1,044	1,047	985	生産量原単位1%削減	購入量は前年度から5.9%減少しました。生産量当たりの原単位でも18.5%の減少となり、目標である1%削減を達成しました。	○
VOC排出量 (t)	11.5	11.0	12.4	-	日本接着剤工業会の重点削減対象9種類の使用量 (購入量) に、大気への排出値として1.05% (工業会の設定した基準値) を乗じた値です。近年、減少傾向で推移してきましたが、今年度は増加となりました。	×
ガソリン購入量 (kl)	34	23	33	-	ガソリンの購入量は増加しています。	×
PPC用紙購入量 (万枚)	309	286	279	-	ファイリングシステム導入の効果もあり、購入量は減少傾向にあります。今後も引き続き削減に努めていきます。	○
水使用量 (m ³)	83,134	78,215	91,686	-	茨城工場の水の使用量増加により大幅に増加しています。	×
一般廃棄物排出量 (t)	44	39	39	年間100t以下	前年度並みで推移し、目標である年間100t以下を維持しています。	○
産業廃棄物排出量 (t)	1,018	1,120	933	年間生産量の5%以内	工場から排出される、製品の切り替え等で発生する産業廃棄物です。前年度から187t (16.7%) 減少し、年間生産量に対して3.7%と目標である5%以内を達成しました。	○
有害廃棄物排出量 (t)	48	69	75	年間生産量の0.5%以内	工場から排出される特別管理産業廃棄物です。前年よりも増加していますが、年間生産量に対して0.3%となり、目標である0.5%以内を維持しています。	○
環境配慮製品の開発 (件)	17	42	24	-	色、規格等の重複を除いた、開発部で新規に設計、上市された製品の数です。	-
環境配慮製品の販売額 (百万円)	10,203	10,521	11,429	総売上金額の30%以上を維持	当社基準のCCSマーク品、JIS、JAIAのF☆☆☆☆品、JAIAの4VOC基準適合品の販売金額です。売上高 (24,278百万円) に対する比率は約47%であり、目標である30%以上を維持しています。	○
新規使用材料の環境調達基準適合確認 (件)	36	8	7	-	グリーン調達を進める中で、新しく採用する原材料の自社調達基準への適合を確認した件数です。なお、実施率は100%です。	○
環境関連の教育・訓練回数 (件)	57	64	82	-	主に工場部門での環境汚染防止等を含む訓練、外部講習の回数です。	○
環境事故発生回数 (件)	5	0	2	-	工場内での異常発生回数です。なお、法令に抵触するような事故の発生はありません。	○
第三者監査・第三者監査 (件)	9	14	22	-	サプライチェーンの監査の要求が高まり、積極的に監査を受け入れていることから、件数が増加傾向にあります。	○

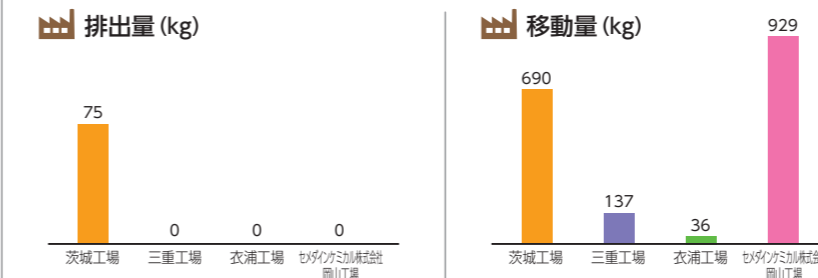
対象: 茨城工場・三重工場・衣浦工場・開発センター・各事業所・各営業所

エネルギー使用量・廃棄物の管理

環境負荷の低減

化学物質の取り扱いおよびエネルギー使用において、環境負荷の低減を進めています。

化学物質の適正管理 PRTR対象物質実績 (2018年度)



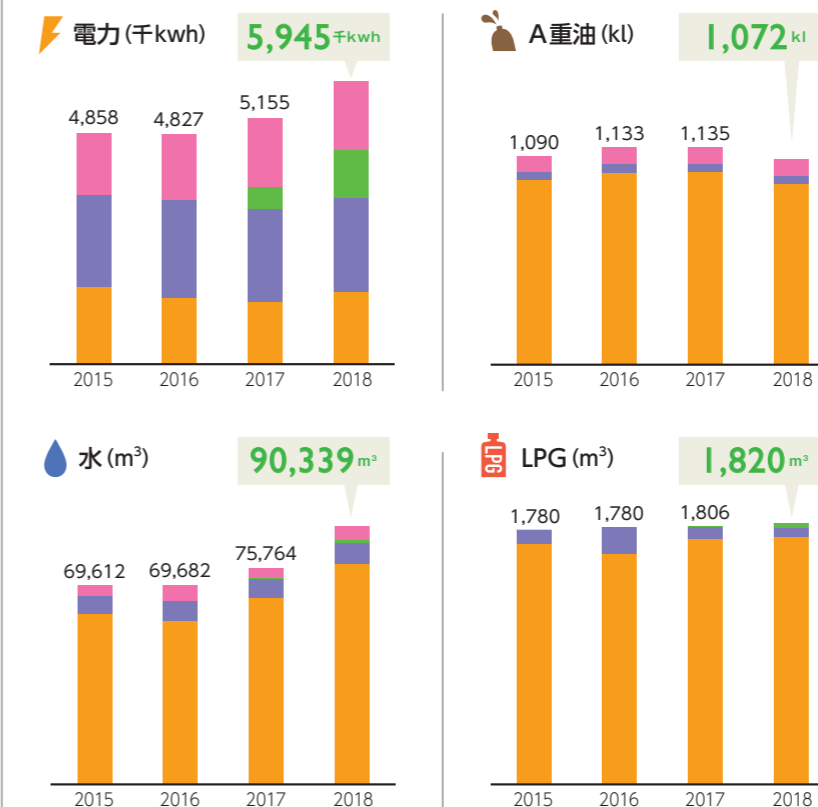
(No.)	化学物質
1	亜鉛の水溶性化合物
134	酢酸ビニル
239	有機スズ化合物
265	テトラヒドロメチル無水フタル酸
298	トリレンジイソシアネート
300	トルエン
349	フェノール
391	ヘキサメチレンジイソシアネート
392	ノルマル-ヘキサン
405	ほう素化合物
411	ホルムアルデヒド
461	りん酸トリアニール

PRTR法詳細: 環境汚染の防止を目的に、各事業者が化学物質の管理に自主的に取り組むべき法律としてPRTR法 (特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律1999年7月公布) が制定されました。この法律の規制のひとつとして、指定された取り扱いの化学物質の環境への排出量 (大気や土壌への排出) や移動量 (廃棄された物) を国へ届け出る必要があり、これにより事業者は自主的に削減に取り組むことが要請されています。

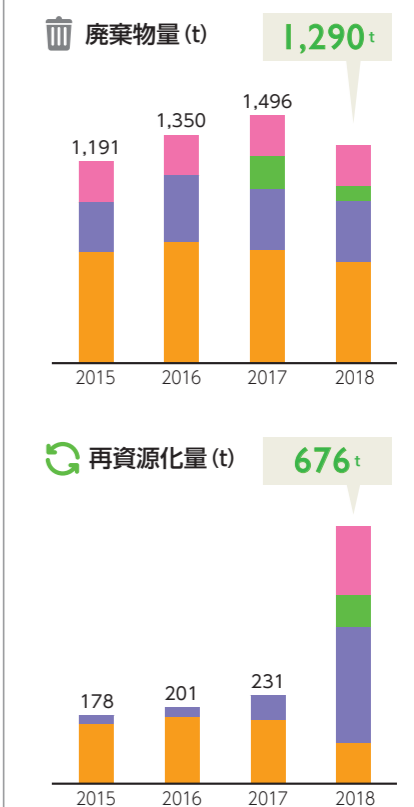
エネルギー使用量・廃棄物の実績

2018年度の廃棄物排出量は前年度から206t (13.8%) 減少しました。生産部門全体で生産の効率化に努め、生産量1tあたりの廃棄物量も22.8%減少しました。今後も生産工程の改善を継続し、廃棄物の削減に取り組んでまいります。

エネルギー使用量実績



廃棄物実績



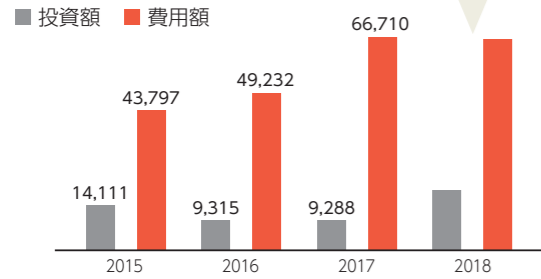
■ 茨城工場 ■ 三重工場 ■ 衣浦工場 ■ セメダインケミカル株式会社岡山工場

廃棄物		
引油性廃油(特管)	金属くず	汚泥
廃油	木くず	廃石棉等(特管)
廃プラ	紙くず	PCB等(特管)

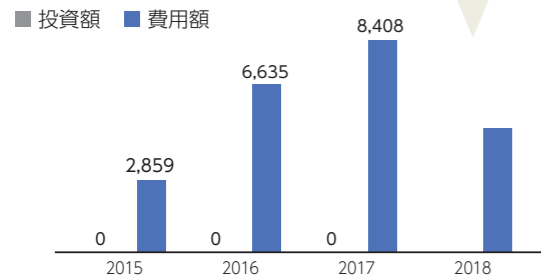
環境会計

環境保全コスト

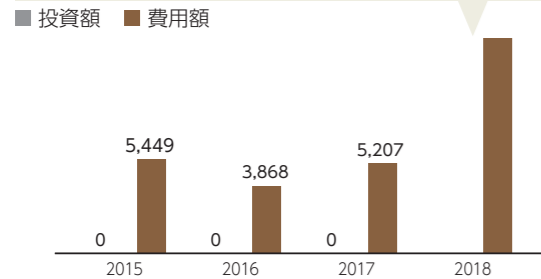
事業エリア内コスト 投資額 18,916千円 費用額 66,014千円



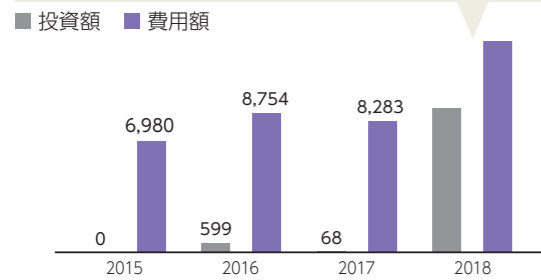
上・下流コスト 投資額 0千円 費用額 4,908千円



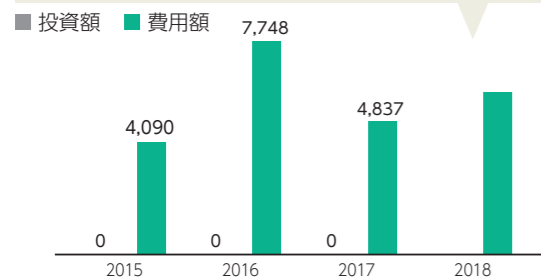
管理活動コスト 投資額 0千円 費用額 12,457千円



研究開発コスト 投資額 9,100千円 費用額 13,287千円



社会活動コスト 投資額 0千円 費用額 5,905千円



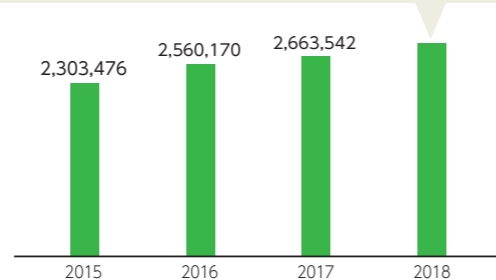
環境保全への取り組み

分類	主な取り組み内容
事業エリア内コスト	公害防止コスト <ul style="list-style-type: none"> ● 霞ヶ浦工業用水使用 ● コンプレッサー更新 ● コンプレッサー点検・修理 ● ボイラー点検・修理 ● 浄化槽清掃・点検 ● 排水測定
	地球環境保全コスト <ul style="list-style-type: none"> ● 集塵機フィルター交換 ● 空調機更新 ● 空調機修理・清掃・点検 ● 照明交換
	資源循環コスト <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物処理外部委託
上・下流コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器包装リサイクル委託 ● 製品の再商品化(再加工) ● グリーン購入 ● 環境配慮品用の製造設備設置
管理活動コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境マネジメント ● 環境測定費 ● 保安講習 ● シルバー人材活用 ● 草刈り ● 塗装
研究開発コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規分析装置への投資
社会活動コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘルマーク教育助成財団寄付金 ● レスリング協会協賛金 ● 古河市花火大会協賛金 ● 西日本豪雨寄付金 他

環境保全効果

分類	主な内容
エネルギー関連	● 節電、重油使用量の削減
廃棄物関連	● 有価物の売却
環境配慮品の市場展開	● 環境配慮品の製品利益

環境保全効果 費用額 2,834,143千円



PEOPLE

人を大切にする

当社グループの社員一人ひとりが、能力を発揮でき、安全で安心して働くことができるように、制度・職場環境の整備を行うとともに、積極的に人材育成に取り組んでいます。

グループ全体の人材育成

適材適所の配置転換・人事評価

当社では、「人を大切に、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献する」ことを企業理念とし、その理念を具現化するために長期的、継続的かつ計画的に人材の開発・育成を図っています。今年度より評価制度の改定を行い、上司部下の面談によるコミュニケーションの機会

を増やすことで、人事評価を通じて人材育成につなげる取り組みを行っております。また、人事異動を通じた育成も重視しており、年2回の評価および年1回の自己申告制度などを用い、能力や適性を見極めて人員配置しています。

ダイバーシティ化への対応

ダイバーシティへの取り組み

労働人口の減少という社会環境の変化に対応するため、優れた人材に当社で働きたいと思ってもらうことの重要性は日に日に高まっております。当社では、勤務時間に一定の裁量をもたせることで、これからも多様な人材に働きやすい就業環境を構築していきます。今後は障害者雇用にもより力を入れ、幅広い人材を受け入れられる態勢を構築していきます。

キスパートの方の中途採用も積極的に行っています。また、柔軟な勤務時間を活かしてパート社員の方々にも多数働いていただいています。

雇用・採用の状況

2018年度は10人の新入社員を採用しました。うち4名が技術系、4名が事務・営業系、2名が技能系です。性別の内訳は男性7名、女性3名でした。他社で経験を積まれた工

休暇取得推進について

当社では労使一体となって休暇取得の促進に取り組んでいます。夏季には会社指定の休日のほか、「夏休み」として、個々の社員が裁量を持って連続年休を取得するよう推進しております。また、永年勤続の労に報いるため長期休暇制度を設けており、長期休暇に向けて職場内の仕事がカバーしあえる環境を意図的に構築することで、普段から休暇が取得しやすい風土づくりをしています。

VOICE：長期休暇取得者の声

昨年、勤続10年の節目休暇を6月中旬～下旬にかけて10日間取得しました。休暇中は念願だったFIFAワールドカップを観に、単身ロシアへ。仕事柄、社内の人との交流が多いのですが、今回の旅を通して色々な国の方と知り合い、一気に世界が広がった感じがしています。休みの間、私の仕事を請け負ってくれた課の仲間には感謝しています。分業化してしまいがちな仕事の仕方を改める意味でも、今回の休暇はとても良い機会となりました。

人事総務部 人事課 勝股さとみ



ワークライフバランスの推進

既に雇用している社員のワークライフバランスを高く保つことも当社の重要な責務と考えています。仕事と子育ての両立を重視し、育児をする社員には育児休業、小学校就学前までの子を養育する場合は所定外労働の制限・育児短時間勤務制度などを設けております。また、小学校卒業までの子を養育する社員へは、フレックス勤務制度を導入しております。

社員のニーズにあった働きやすい会社をこれからも実現していきます。

VOICE：柔軟な制度を活用して、楽しく働くことができます！

現在8歳の息子の子育てをしながら、品質保証本部の業務に携わっています。仕事と子育ての両立ができるのか復帰前はとても不安でしたが、1年間の育児短時間勤務制度を活用後、2013年よりフレックス勤務制度へ切替え、チームで業務を行うという部内の協力体制のもとで、日々メリハリをつけて働くことができます。現在の仕事でのキャリアを積み、今後は会社全体として女性が更に活躍できる機会が増えるよう、後輩たちに公私共に色々なアドバイスができる存在になっていきたいです。

品質保証本部 環境安全衛生部 環境管理グループ 木村 智子

上長の声

既にこの制度を数年利用していますので、社内調整もスムーズに行われ、制度が徐々に定着してきたと思います。フレックス勤務制度をうまく活用し、効率的に仕事をこなしながら、家事・育児との両立を図ってください。

環境安全衛生部
環境管理グループ
課長 佐伯友見



安全衛生

労働安全衛生法の徹底

すべての事業活動において安全操業を継続していくため、法令順守はもちろん、必要に応じて自主基準を設定して安全衛生レベルの向上に努めています。各事業所においては、安全衛

生活動を推進していくための組織体制を整備し活動を展開しています。具体的な活動として、5S活動やリスクアセスメント、安全パトロールなどにより継続的な改善活動を行っています。

CR査察(品質・安全・環境)の実施

安全衛生活動は各事業所単位で自主的に改善を進めていく活動ですが、その活動の状況を客観的に評価し、課題共有、改善指導、支援する仕組みとして、2017年より「CR査察(品質・安全・環境)」がスタートし、2018年は2回目の査察を実施しています。査察結果については、定量評価をして各事業所の課題を明確にしています。

CR(コンプライアンス リスク)

CR査察とは、セメダイングループの製造拠点において、操業状況を把握し、必要に応じて改善し、事故発生を未然に防止することを目的としています。各事業所の安全衛生・環境・品質・コンプライアンスに関する活動状況を査察し、実施すべき事項が明確になっているか、計画を立てて実施されているか、実施レベル(実績)等を、査察委員が客観的にチェックして評価するものです。査察委員長を品質保証本部長、査

察副委員長を生産物流本部長が務めています。査察対象事業所はセメダインおよび国内外グループ会社の各工場で国内5拠点、海外4拠点(CNL除く)です。

各事業所トップが示す方針が明確になり全従業員に周知されているか、方針に沿って活動の年間計画が立てられ進捗管理されているか、活動の結果のパフォーマンスがみえるようになっているかということを重点的に査察し評価しています。さらに毎年、重点査察項目を設定することにより、メリハリのある効果的な査察になるよう工夫をしています。

今後も、このCR査察を継続的に実施していくことにより、セメダイングループ各事業所の安全衛生活動、改善活動を支援していくこととしています。

※CNL
CEMEDINE NORTH AMERICA LLC

※2019年度より「CR査察」の正式名称が「安全・品質査察」に変わりました。

2018年度の取り組み

●国内

国内事業所では、従来からの5S活動、KY活動、リスクアセスメント、ヒヤリハット、教育訓練などの活動を継続的にを行い、労働災害や火災事故等の防止を図っておりますが、2018年は茨城工場で不休業災害が1件発生しました。被害の程度は大きくありませんでしたが、潜在的な災害リスクに対する認識が希薄になってきていたことを反省し、再発防止に努めるべくCR査察による改善指導に取り組んでいます。

具体的な再発防止対策として、親会社のカネカによる技術支援を受けながら、徹底的な事故原因の調査を行い、原理原則に基づく対策の実施と効果検証を行いました。

また、管理監督者を始め、作業に携わる全員が災害リスクに関する正しい知識を身につけ、対策を遵守することの重要性を理解し徹底していくため、定期的に社内講習会などを行うことにより、継続的に啓蒙していくこととしています。

●海外

セメダイングループの海外製造拠点は、タイに2拠所と台湾、フィリピン、アメリカの計5拠所あります。海外事業所は、高温多湿の気候であるという環境から、日常的に静電気を感じないということもあり、国内事業所よりも静電気による火災爆発リスクに対する意識が希薄な傾向があります。

そこで、改めてCR査察の重点項目に設定して、火災爆発リスクの評価と低減対策の指導を進めています。法令順守は当然ながら、静電気が発生しにくい環境でもその可能性はゼロではないこと、リスク低減策の重要性の理解と啓蒙を進めていくこととしています。



社会から必要とされる 企業であり続ける

当社グループは、常に地域社会に根差した企業として、事業所が地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域との積極的な交流に努めるとともに、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

地域社会への貢献

地域貢献活動

2018 2018 2018
4月 7月 10月

三重工場

工場周辺道路の清掃

三重工場では地域社会貢献活動として、毎年3回工場周辺道路の清掃を年間計画に取り入れ実施しています。



2018
4月

三重工場

「緑の募金」へ協力

地球温暖化や自然破壊を防止すべく、森林づくりの応援として「緑の募金」に毎年協力しています。

2018
10月

三重工場

市の祭りに参加

所轄消防本部予防課の依頼により、市の祭りの催し“消防コーナー”に運営補助スタッフとして参加しました。



2018
12月

茨城工場

高専および高校の工場見学会

近隣の高等専門学校、高校の教育及び進路指導の一環として、茨城工場の見学会を実施しました。今後の授業や進路意識を高めるなど少しは役に立てたと思います。

2018
7月

三重工場

流出防止の強化

万一の有事の際、液体の製品や材料が敷地外に流出しない様、吸油マットや土嚢を設置しています。更に昨年には漏洩遮蔽板を設置し、流出に対する対策を強化しました。社員は年に1回流出防止訓練、納入業者様には異常時の手順を看板にて表示しています。



2018
11月

茨城工場

科学の祭典協賛

2006年に「青少年のための科学の祭典古河大会」に協賛してから12年間、科学の祭典で使用する製品の提供を行うことで、古河大会を盛り上げるべくバックアップしています。

2019
2月

茨城工場

高校生のインターンシップの受け入れ

県立工業高校の進路指導の一環として、茨城工場に高校2年生の生徒3名を2月4～6日の3日間、受け入れました。初日は安全講習等を行った後、製造現場で製品の箱詰めを行いました。生徒も今回の研修で今後の就職活動にプラスになったと話していました。

2018 SPRING

SUMMER

AUTUMN

2019 WINTER

2018
4月

茨城工場

小学校1年生への木工用接着剤の贈呈

2015年4月より茨城工場のある古河市の小学校に入学する1年生全員に、お祝いとして木工用接着剤を贈呈しています。2018年度も4月に茨城工場長から針谷古河市長への贈呈式を行いました。

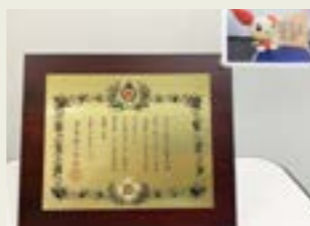


2018 2019
6月 2月

茨城工場

献血活動

茨城工場では年2回献血を実施し多数の社員が献血に協力しています。また2018年9月には多年にわたり献血を実施したことにより、日本赤十字社より感謝状を頂きました。



2018
9月

本社(人事)

しながわ職場歩き

2018年9月10日に「しながわ職場歩き」において、同区内の品川学園の生徒を受け入れ、当社の事業内容や従業員の仕事についての説明をしたり、「はたらく」ことについて社員と意見交換を行いました。生徒の将来に向けての職業観の醸成や、社会とのかかわりについて考える機会を提供しました。



2018 2019
10月 3月

茨城工場

美化運動、清掃活動

茨城工場は年2回工場周辺の道路および歩道の清掃活動を実施しています。清掃は各職場から参加し、タバコの吸い殻や空き缶、ペットボトルなどのゴミを回収するなどの清掃活動を実施しました。



協賛

高専ロボコンと小学生ロボコン

創業以来、ものづくりの現場に寄り添い続け、「つくる」を「つける」で支えてきたセメダインは、次世代のものづくり人材に関する教育支援も積極的に行っています。

1988年に始まり、「既存概念にとらわれず、自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことの大切さや素晴らしさを広めてきた『アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)』への協賛を通じ、ものづくりに熱い想いを懸ける若きエンジニア達を応援しています。

また、STEM教育をはじめ、大人達以上にロボットやAIへ

の注目が高まる中、小学生向けに2019年より始まった『小学生ロボコン』も、セメダインはサポートしています。子供達が、ものづくりに触れ、発想することの面白さとカタチにする楽しさを体験する機会となり、技術面だけでなく豊かな心の成長にもプラスになるよう願っています。

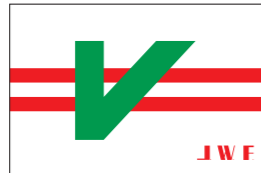


スポーツ

スポーツには、挑戦する勇気を与え、互いに支え合い、喜びを分かち合う感動を生み出し、人と人をくっつけ、世界をひとつにするチカラがあります。感動を分かち合える心豊かな社会の実現に向けて、セメダインも、スポーツ協賛を通じ、挑戦する人々を応援していきます。

日本レスリング協会

レスリングの発展を通じ、国民の体力向上とスポーツ精神の涵養に資することを目的に、世界の第一線で活躍するメダリストをはじめ、全国少年少女レスリング大会で腕を磨いているキッズレスラーから、学生、社会人選手まで、レスリングの普及・発展と選手育成に取り組んでいる日本レスリング協会の活動に賛同し、支援しています。



プロバスケットボールチーム「アースフレンズ東京Z」

1969年に本社を移転して以来、半世紀にわたって品川区を拠点に事業活動を行ってきたセメダインは、同じ東京城南エリアをホームタウンに活動しているプロバスケットボールチーム「アースフレンズ東京Z」を、チーム設立当初よりサポートし、地域社会におけるスポーツ文化の振興育成に共に

取り組んでいます。

また、チームが推進する「体にハンディのある方や、さまざまな理由により観戦にお越しいただきにくい方にもスポーツを観て楽しんでいただく」ことを目的とした座席「ユニバーサルシート」の設置にも共感、協賛しています。



ベルマーク

「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」。ベルマーク運動は、そんな願いをこめて1960年に始まりました。対象商品についているベルマークを集めることで、その点数に応じて、学校の設備や教材を購入することができ、さらに、遠隔地学校や特別支援学校、災害被災校、開発途上国の子どもたちへ援助の手を差し伸べ

ることができます。

セメダインも、ベルマーク運動に賛同し、1979年より協賛しています。



適時適切な情報開示

情報開示に関する基本方針

当社では、ホームページや事業報告書などを通して、株主・投資家の皆様に適時・適切な情報開示を行っております。投資判断に影響を与える決定事実や発生事実に関する情報、決算に関する情報、既に開示した重要な内容について訂正・中止などが行われた場合に情報開示を行います。また、経営上の重要事項に限らず、トップインタビューや当社の歴史、製品に関するコラムなどについても、投資家の要望に応えるべく、出来るだけ積極的かつ公平に開示し、当社についてご理解いただけるよう努めております。

適時開示体制の概要

当社における会社情報の適時開示に係る現行の社内体制は、管理本部長を情報取扱責任者に据え、法令および東京証券取引所の諸規則を遵守し、適時適切に開示を行うよう努めております。投資判断に影響を与える決定事実および発生事実については、情報取扱責任者を中心に開示の可否を検討し、開示が必要な場合は迅速に行うよう努めております。



当社ホームページ

<https://www.cemedine.co.jp/>

IR情報の開示

当社では広くステークホルダーの皆様向けに、決算情報やニュースリリースなどをタイムリーに把握いただくために、ホームページに開示情報を適時掲載しております。また、半期に一度、株主の皆様へ事業報告書を送付し、トップメッセージや事業の概況についてお知らせしています。

IRスケジュール

5月	決算発表
6月	定時株主総会
8月	第1四半期決算発表
11月	第2四半期決算発表
2月	第3四半期決算発表

※公表すべき重要事実が発生した場合は、適時に情報開示を行います。



事業報告書

利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益配当を、経営の最重要課題の一つとして認識しております。株主の皆様への利益還元を重視しつつ事業の成長および企業体質強化のための内部留保の充実を総合的に実現すべく、継続的な利益確保とバランスのとれた安定配当を行うことを基本方針としております。

株主総会

当社は、株主総会を株主の皆様と経営者との対話を行える貴重な場として、認識しております。そのため、株主の皆様が株主総会議事事項について検討を行う十分な時間を取れるように、招集通知の早期発送やホームページへの掲載、WEB開示などに取り組んでいます。また、事業報告をよりわかりやすくする工夫として、グラフなどを用いた報告事項のビジュアル化に取り組んでいます。

企業価値の 継続的向上に取り組む

お客様、株主・投資家、取引先、社員、社会、環境など、
企業をとりまく様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、
社会の期待と信頼に応えられる体制を構築してまいります。

コーポレート・ガバナンスの強化

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

東京証券取引所による「コーポレート・ガバナンスコード」の策定、推進などにより、コンプライアンス体制を構築し、株主や投資家を守り、企業価値を高めて、持続的な発展を達成する体制を構築することは、今や上場企業に限らず、あらゆる企業の取り組むべき課題となっています。

当社グループでは、こうして構築されたガバナンスの上に、

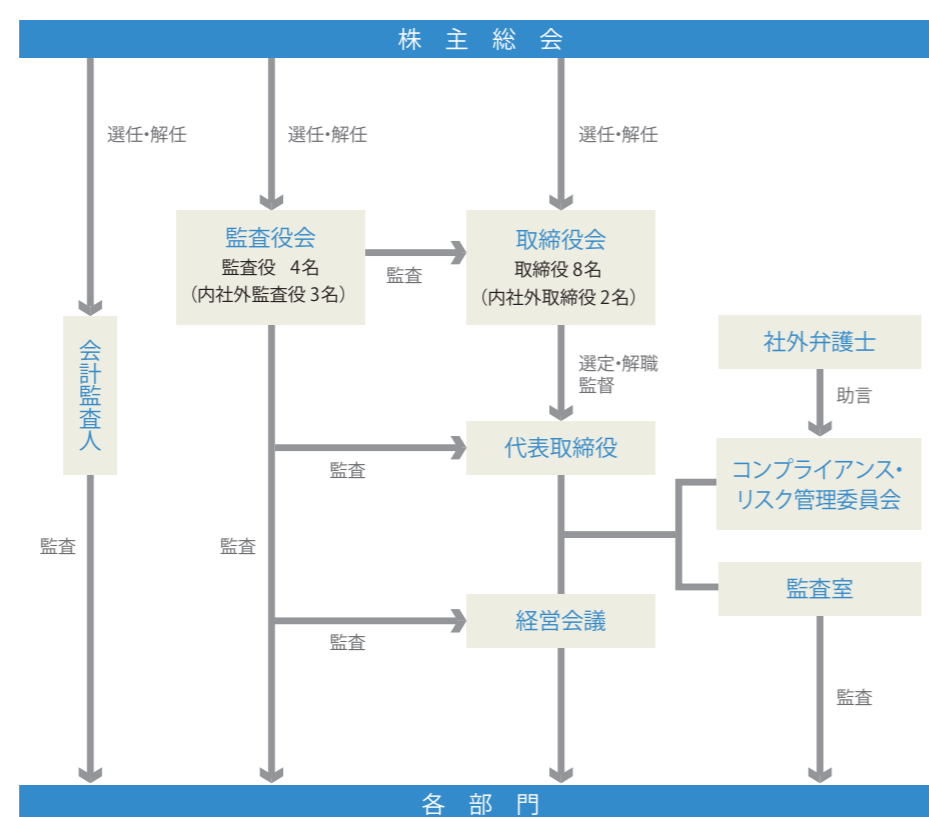
ニーズを先取りした製品の開発や継続して利益の出る企業体質を実現することにより、お客様や原材料メーカーとの安定的なお取引、社員の雇用継続など、当社とかわりを持つあらゆる人々に利益を提供するとともに、製品の安全や地球環境の保全についても重視し、安心して長くお付き合いのできるような企業を目指しています。

CSRを支える体制

内部監査は、取締役会により構築されたガバナンスとリスク・コンプライアンス体制の下、内部監査人協会（IIA）の「内部監査の専門的実施の国際基準」に準拠し、経営目標の効果的な達成に役立つことを目的としております。

全部署を対象とし、内部監査規程およびリスク評価に基づいた監査実施計画を立案し、合法性と合理性の観点から、公正かつ独立の立場で、業務の遂行状況を評価しています。必要に応じ、被監査部署に改善や是正を提言するとともに、監査結果は、定期的に取り締り委員会に報告されます。

コーポレート・ガバナンス体系図



コンプライアンス、リスクマネジメント

セメダイングループ行動規範

基本理念

セメダイングループの役員及び社員は、業務遂行にあたり法令・社内規程等を遵守すると共に、公正と秩序、誠実と信頼をモットーとし良識ある社会人として行動する。

遵守事項

- 1 法令等を遵守し、業務上の都合を優先させるようなことはしません。
- 2 就業規則その他の社内規程等を守り、互いに人格を尊重し、就業環境の向上に努めます。
- 3 社会と社員の安全を最優先します。
- 4 業務遂行に当たり、リスク要因の情報収集と未然防止に努めます。
- 5 取引先には誠実かつ公正に接し、信頼される取引関係を築きます。
- 6 業務上知りえた情報や第三者の知的財産権等を適切に取り扱い、インサイダー情報、個人情報及び社内機密情報を漏洩しません。
- 7 反社会的勢力には毅然として対応し、一切の関係を遮断します。
- 8 行動規範に反する発言や行動に気付いた場合は、是正に努めると共に、速やかに上司またはコンプライアンス・リスク管理委員会に報告します。

コンプライアンスの推進体制について

コンプライアンス維持のための組織として、コンプライアンス・リスク管理委員会を設け、各部門長をコンプライアンス・リスク管理委員会に任命して自部門のコンプライアンス責任者としています。

コンプライアンスリスク防止のための基本規程として、セメダイングループコンプライアンス・リスク管理規程を定め、グループすべての社員にコンプライアンスの徹底を図っています。特に、セメダイングループコンプライアンス・リスク管理規程にて規定しているセメダイングループ行動規範は、小冊子として全社員に配布し、常に携帯を義務付けています。さらに月に一度は部や課の朝礼・会議などの機会に基本理念と行動指針を読み上げて、周知と徹底を図っています。加えて、年1回のコンプライアンス研修を実施するなど、社内全体にわたり知識のボトムアップに努めております。

BCPについて

事業継続計画（BCP）については、緊急事態の発生をリスクとしてとらえ、コンプライアンス・リスク管理委員会が主管となって推進しています。

東日本大震災の教訓をもとに、本社での緊急事態発生時の体制整備、緊急事態における各部門の役割の明確化とその準備、各工場・物流拠点との連携と指示などを明確にしたBCPマニュアルを整備しています。

また、本社以外の各拠点（大阪・名古屋事業所、茨城・三重・衣浦工場）での緊急事態発生時の初動体制なども検討を行い、シミュレーションによる全体訓練を検討しています。

情報管理の取り組みについて

当社の情報管理については、基幹システムを社外データセンターに設置し、外部から保護された環境において、すべての業務処理を、そこで集中実施しています。

また、USBメモリーなどの情報媒体による情報の移動を禁止し、情報漏えいの防止を行っています。

各システムのセキュリティ管理については、情報統括担当部門である管理部が一括で管理を行い、外部からのウィルスの侵入や不正アクセスの防止に努めています。

個人情報についても、各部門にて厳格に管理されており、その管理状況については、毎年監査室によって内部監査が実施されています。

リスクマネジメントの考え方

当社のリスクマネジメントとしては、コンプライアンス・リスク管理委員会にて、年に二度各部門が自らリスクの調査を行い、新たに発見されたリスクに対して対処を行い、コンプライアンス・リスク管理委員会に報告しています。

また社長を委員長とする内部統制委員会を設けて、会社の各機能（販売、購買、製造、決算など）について仕事の流れを明らかにし、業務記述書を作っています。

その業務に対してリスク（不正が起こる要因）とコントロール（不正が起こらないように行う統制行為）を調査し、特に重要なコントロールをキーコントロールと指定して公認会計士とともに内部統制委員会が監査を行い、その結果を社長名にて内部統制報告書として関東財務局へ報告しています。

グループ全体の品質・安全への取り組み

■ 当社グループの品質保証体制

当社グループは、製造拠点を国内に5拠点、海外に5拠点持ち、個人のお客様向けの製品から、建築現場や電子部品、車載部品向けまでの多種多様な製品を作り、幅広い分野でご利用いただいております。お客様に、安全な製品を確かな品質でご提供できるよう、ISOによる品質管理システムを基に運用、維持しております。今後も当社を取り巻く環境に対応しながら、品質の水準を高めていきます。

当社の品質保証について

当社が製造販売している接着剤、シーリング材には有効期限があり、適正な温度で輸送、保管しないと使用前に硬化してしまうものや品質に影響がでる場合もあります。

これまで国内で流通、ご使用いただいている場合には、温度管理に起因する問題はあまり起こりませんでした。海外の様々な環境下での使用機会が増えるにつれ、流通・保管の温度による不具合が増加しており、その対応として、当社で

は工業用接着剤の一部で冷蔵輸送・保管の取り扱いを実施しています。

品質を保証すべく、より良い状態で製品をお届けするためにも、これからも品質にこだわり、お客様の期待に応えていきます。

仕入先への訪問、監査の実施

近年は、お客様から、当社の品質管理はもちろんのこと、原材料、商品の仕入れ先についても同様の品質管理体制を要求されることが増えております。このため、仕入れ先を定期的に訪問し、品質管理体制の向上をお願いしております。また、RoHS指令を始めとする化学物質関連の法規制についての関心の高まりから、原材料、容器包装について含有成分を確認するとともに、化学物質の管理体制について実地で監査を行うことが増えております。

■ 国内工場の品質管理体制

セメダイン茨城工場、三重工場、衣浦工場は、品質マネジメントシステムの国際標準であるISO9001 (JIS Q 9001) を取得、維持しています。永年にわたりISO認証を維持することで、工場としてのものづくりの仕組みが定着しており、お客様の製品に対するご要求に応えられる体制を整えています。また、セメダイン茨城工場、三重工場、およびグループ会社であるセメダインケミカル株式会社 岡山工場については、建築用接着剤、建築用シーリング材等のJIS規格の認証を受けており、JISマーク製品をお客様へご提供できる品質管理体制を整えています。日常の品質管理は工場単位の活動ですが、基本的なルールは統一し、セメダイン製品の品質が工場によって異なることがないよう、品質管理委員会などの会議体を通じて情報を共有し、品質向上に取り組んでいます。

お客様の監査への対応

近年、製品の品質だけでなく、製造のプロセスや仕組みを重視するお客様が増えております。そのため、実際に当社の各工場を訪問し、製造の現場をご覧いただき、お客様の要求を直接お聞きすることが、品質向上のために重要な事項と考えます。実際に、この数年はお客様の訪問を受けることが増えております。工場訪問時にいただいたご要望には誠実に対応し、設備、仕組みの改善を進めるとともに、他の作業現場、工場でも適用できることは横広げを行うことで、セメダインの製造技術、製品品質の向上に努めております。また、材料や工程を変更する場合は、品質に変化が生じないことを確認するとともに、事前にお客様に報告し、必要な場合は実地で審査を受ける等の対応も実施しております。

■ 労働安全衛生活動の徹底

すべての事業活動において安全操業を継続していくため、法令遵守はもちろん、必要に応じて自主基準を設定して安全衛生レベルの向上に努めています。各事業所においては、安全衛生活動を推進していくための組織体制を整備し活動を

展開しています。具体的な活動として、5S活動やリスクアセスメント活動、安全パトロールなどにより継続的な改善活動を行っています。

■ 安全情報の提供

当社では、SDS、ラベル、イエローカードなどを通じて、製品の安全情報を提供しています。

安全データシート (SDS) の活用

SDSは、化学品の取り扱い方法や危険有害性に関わる情報を詳しく伝える文書であり、当社製品の安全に関する情報を提供する上で、非常に重要となっております。

そのため、顧客、販売代理店、輸送会社など、当社製品を取り扱う会社へ提出しています。

改正労働安全衛生法、改正JISへの対応

2014年の労働安全衛生法の一部を改正する法律公布に伴い、SDSの提供が義務付けられている化学物質について、2016年6月1日からラベル表示の義務が課せられるとともに、事業者によるリスクアセスメントの実施が義務付けられました。この改正により、ラベル表示の対象物質が大幅に増加しましたが、セメダインではこの改正法令への対応を完了しています。現在は2019年に改正されるJIS (JIS Z 7252、JIS Z 7253) に基づくSDSの改定とラベル表示の見直しの準備を進めています。

ラベルの表示

製品の容器に貼付するラベルには、GHSに対応した取り扱い時の注意点や危険有害性情報を、取り扱い者向けに簡潔に表示しています。

イエローカードの配付

イエローカードとは、製品輸送中の万一の事故に備え、製品の該当法規、性状、応急処置や消防、警察、当社への通報連絡先などを、簡潔に記載した黄色地のカードです。

化学品を輸送する会社へ配付し、輸送時の携帯をお願いしています。

■ 化学物質管理委員会の実施

工場・購買・開発・営業・品質など各部門が集まり、定期的(1回/月)に“化学物質管理委員会”を開催しています。

本委員会では、国内の法規制やお客様・業界個別のグリーン調達、近年増加している輸出にかかわる各国・地域の規則などの情報を各部門に伝達することにより、必要情報の周知・共有化を図り、迅速な対応ができるよう、各部門の役割分担を明確化しています。また、新規登録した原材料についても、各種法規制や取り扱い情報などの報告を行っています。

化学物質の取り扱いや製品の安全性など、リスク管理を先取りできるように、本委員会にて審議し、全社へ情報を発信しています。

■ 製品のリスク管理への対応

当社は、安全で高品質な製品をお客様にお届けするために、法令、規制の遵守はもとより、予防的アプローチの観点からも、製品の品質や安全性に関する様々な取り組みを行っています。

新製品の適切な評価

当社では、研究開発のテーマ探索から、市場分析、試作、製品化に至る4つの段階で、詳細なDR (デザインレビュー) を行っています。

有害化学物質などの使用有無の確認、顧客の要求事項への適合性、および法規制対応などについて、初期段階 (DR1) から精査し、製品の安全性を第一とした開発に取り組んでいます。



■ 分析の実施と技術の向上

電気・電子機器用途向け製品については、RoHS指令規制対象物質の分析を定期的に外部機関で実施しています。

社内分析については、JIS・JAIA・JSIAのF☆☆☆☆ (ホルムアルデヒド) 分析や、JAIAの4VOC (トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン) 分析をはじめ、様々な分析の中から、必要な分析を選定し、各分析の精度を高めるとともに、信頼される測定データの取得に努めております。



JAIA F☆☆☆☆

JAIA 4VOC 基準適合



思美定(上海)貿易有限公司 / CEMEDINE SHANGHAI CO., LTD.

所在地 上海市浦東新区陸家嘴環路1000号
恒生銀行大廈39楼041室

設立 2012年

業務内容 接着剤・シーリング材の販売



環境への取り組み

上海では2019年7月よりゴミの分別が始まりました。

正確には「生ごみ」と「一般ゴミ」のゴミ回収は行われていたのですが、更に「回収ゴミ」と「有害ゴミ」が設定され、正しく分類されない場合は200元の罰金を課せられます。市中のゴミ集積所には所々監視員がおり、場所によっては、ゴミ集積所に監視カメラが設置されています。オフィスに於いても同様、くずかごは撤去され、各自がゴミを出す際に分別容器に入れる様になりました。この様に日本と比較するとゴミの意識改革はようやく始まった状況ですが、一方で、AIを使ったゴミ分別判定のスマホアプリの登場やゴミ出しそのものを請け負う業者が出てくるなど、新たなビジネスも生まれています。

VOICE

こんにちは、セメダイン上海の沈 黎 (Shen Li) です。メインは中国の工業関係の営業として活動しております。

セメダインの接着剤は工業だけではなく建築、一般消費者向け、自動車用と幅広い分野で活躍しています。

セメダイン上海でも工業、建築、自動車と担当分野は分かれています。皆家族のように連携・協力しながら辛いことや楽しいことを共有して仕事をしています。

営業部工業課
沈 黎



CEMEDINE SHANGHAI CO., LTD.

セメダインケミカル株式会社

セメダイン株式会社開発センター

セメダインケミカル株式会社

所在地 岡山県加賀郡吉備中央町西152-7

業務内容 接着剤・シーリング材の製造



地域での活動

岡山県教職員工場見学

岡山県の教職員の製造現場体験研修サポートのため、理科系の先生方に当社工場にお越しいただき、工場見学会及び接着剤・シーリング材の概要説明をさせていただきました。



地域企業意見交換会と工場見学

自治体(吉備中央町)主催の地域活性化と雇用促進を考える意見交換会に参加しており、工場見学等も実施しています。



セメダイン株式会社 開発センター

所在地 茨城県古河市駒羽根94-2

業務内容
開発部 ●新製品の開発及び分析・試験
生産技術部 ●生産部門の生産体制の検討及び新生産方式の設備設計等



環境への取り組み

開発部は環境に優しい製品開発を通じてユーザーの省エネ・省資源の実現の為、研究活動を行っています。又、生産技術部は新生産方式や新設備等の検討を行い効率化や省資源を目指しています。今期のトピックスとしては、廃溶剤のリサイクル化を行い産業廃棄物の削減を実現しました。

